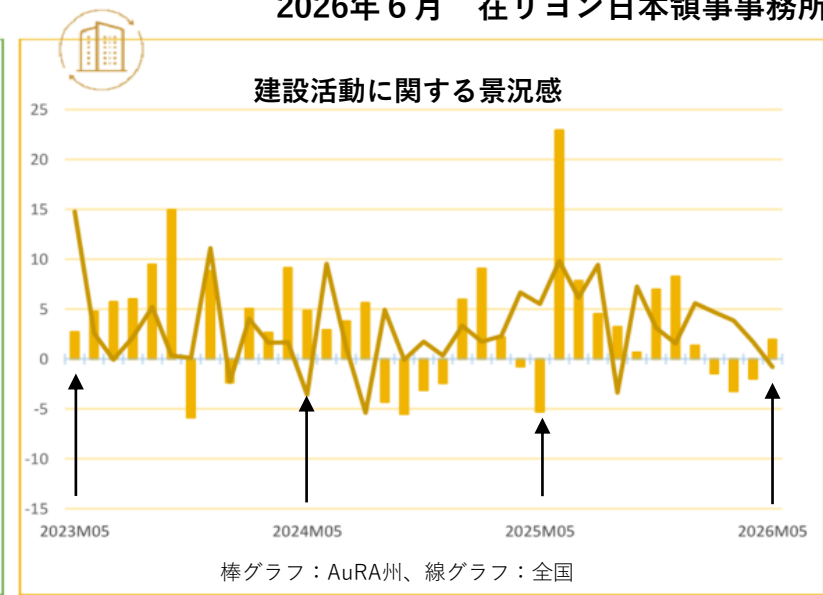
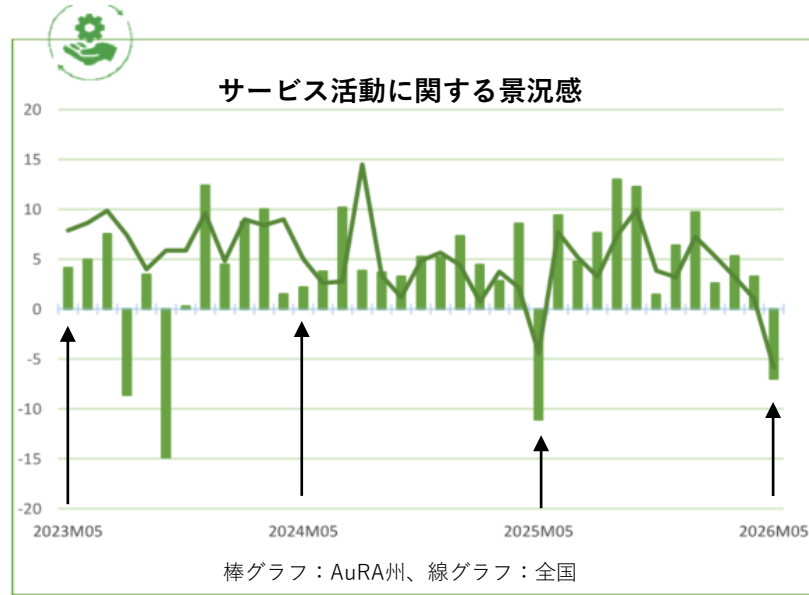
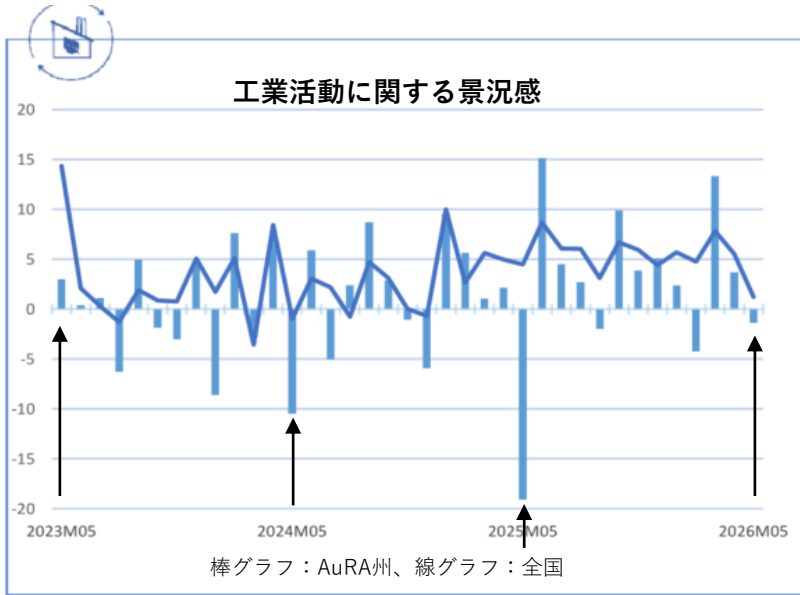


オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年 5 月）

2026年 6 月 在リヨン日本領事事務所

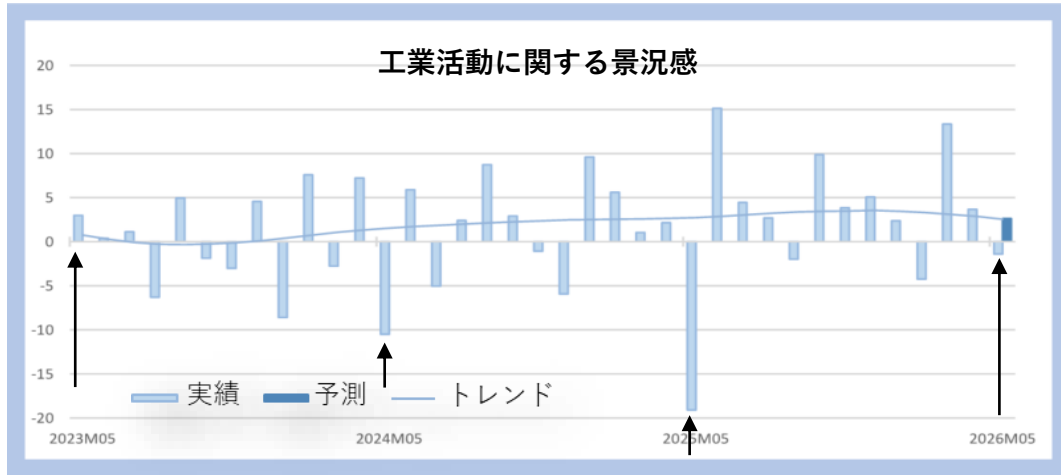


ポイント

- 5月のAuRA地域圏における景況感はやや低迷した。
- **工業部門**：5月の景況感のごくわずかに減少したが、業種によって動向は異なっていた。設備稼働率は低下したものの、2023年末の水準に近い高い水準を維持した。原材料価格の上昇は3カ月連続で続いているが、販売価格に完全には転嫁されなかった。雇用はほぼ横ばい。受注残は依然として低水準にとどまっているものの、6月の事業活動はより活発化すると見込まれている。
- **サービス部門**：AuRA地域圏では全国レベルと同様に、個人向けサービス、外食、人材派遣の各セクターで景況感が悪化したことを受け、全体としても悪化した。販売価格は、主として陸上輸送における燃料価格上昇の波及により、引き続き上昇した。その他のセクターで見られた上昇幅は緩やかなものにとどまった。雇用は横ばい。企業経営者は、短期的には事業活動の持ち直しを見込んでいる。
- **建設部門**：AuRA地域圏の景況感は、数ヶ月にわたる悪化を経て、低水準で安定したが、全国レベルでは悪化した。基礎工事と内装工事はいずれも同様の傾向を示した。基礎工事では競争圧力により見積価格が引き続き下落した一方、内装工事では資材費の高騰を反映して価格引き上げが行われている。内装工事の受注残は回復した一方、基礎工事では依然として低迷しているとみられる。業界関係者は慎重姿勢を維持しており、6月には事業活動が減少すると予想している。
- 資金繰りの状況は、ゴム・プラスチック製品及び木材・紙・板紙の製造を除き、製造業では全般的に改善した。サービス業では、特に道路輸送、自動車修理、エンジニアリング・技術設計の各セクターにおいて、資金繰りがわずかに悪化した。

- フランス銀行がAuRA地域圏の工業、サービス業、建設・公共事業の各セクター1,150の企業と事業所を対象に、景況感について調査を実施（2026年5月27日～6月3日）。
- 景況感（le solde d'opinion）とは、企業経営者による肯定的意見と否定的意見の合計を、企業の従業員数で加重平均し、各部門の付加価値で調整したもので、企業経営者による7段階評価の回答を集計した指数であり、その値は-200から+200の範囲となる。季節調整済み及び稼働日調整済みデータを使用。（出所：Banque de France, [Tendances régionales : Auvergne-Rhône-Alpes](#)）

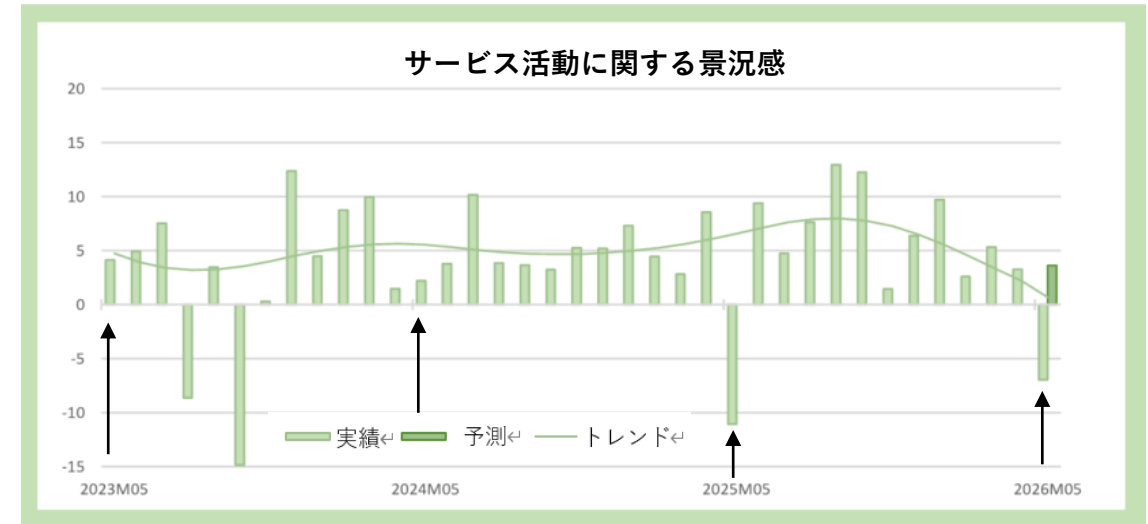
オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年5月） ：実績、翌月の予測、トレンド



5月の工業部門の景況感はわずかに悪化した。業種によって動向は異なっている。化学工業、食品・飲料、輸送用機器製造が悪化した一方、機械・設備製造、繊維・衣料・皮革、木材・紙・段ボール、電気機器製造は改善した。原材料価格は3カ月連続で上昇を続けたが、販売価格の上昇幅は比較的緩やかだった。受注残は依然として少ないとみられているものの、企業経営者は6月には事業活動は活発化すると見込んでいる。



サービス部門では5月の景況感は悪化した。しかしこの背景には対照的な状況がある。人材派遣、飲食、その他の個人向けサービス（自動車修理、理美容、清掃）は大幅に悪化した一方で、企業向けサービスは全体として好調な勢いを維持。販売価格は、陸上輸送における燃料費高騰の影響を受けて上昇を続けているが、他のセクターでは価格上昇は控えめだった。雇用はほぼ横ばい。企業経営者は6月には業況の改善を見込んでいる。



建設部門の景況感は数ヶ月にわたる低迷を経て安定した。今月は、基礎工事も内装工事もほとんど変化は見られなかった。競争の激化を受けて、基礎工事では見積価格の下降傾向が続いた。一方、内装工事では、資材価格の上昇を一部転嫁するため、価格の引き上げが行われた。受注残は、基礎工事では依然として低水準にあるとみられるが、内装工事では一部持ち直した。短期的には、業界関係者は慎重な姿勢を保っており、基礎工事では事業活動の減少、内装工事ではせいぜい横ばいを見込んでいる。

